



東洋の接化的人間観

The Eastern Transformative Contact View of Humanity

東洋と西洋の
人間観の比較

2025.06.21

西洋の人間観

- 天の上の天を強調(超越的存在)
- 人間と神/自然の分離および対立
- 自然への征服と支配の観点
- 個人の成長と成就を重視する実存意識

東洋の人間観

- 天の中の天を強調(内在的存在)
- 天地(天地)と人間の仲介者的役割の強調
- 自然との調和と相互作用の追求
- 天地の化育に参与する憂患意識の重視

根本的差異

東洋の接化的人間観は相関的思惟を基盤とする。西洋は人間の能力で天地を活用すべき対象と見るのに対し、東洋は天地が人間に能力を与えたのであり、人間は天地に恩恵を返さねばならない存在と見る。

人間と宇宙の関係に対する根本的な認識の差異

東洋の接化的人間観

相関的思惟と フラクタル理 論

東洋の相関的思惟とは？

部分と全体が互いに繋がっており、宇宙のすべての要素が相互関係を結んでいるという思惟方式である。天、地、人間が互いに分離された個体ではなく、相互に連結された体系として見る。

- 部分と全体の有機的連結性の強調
- 人間を天地(天地)と分離せず相関的關係として把握
- 西洋の分析的還元的思惟と対比される総合的思惟方式



沈光鉉のフラクタル 理論

- 部分から全体構造が反復される自己相似性
- 「フラクタル(fractal)」とは複雑でも同一構造の反復
- 韓国の文化の特性をフラクタル構造とし、

陰陽五行とフラクタル 構造

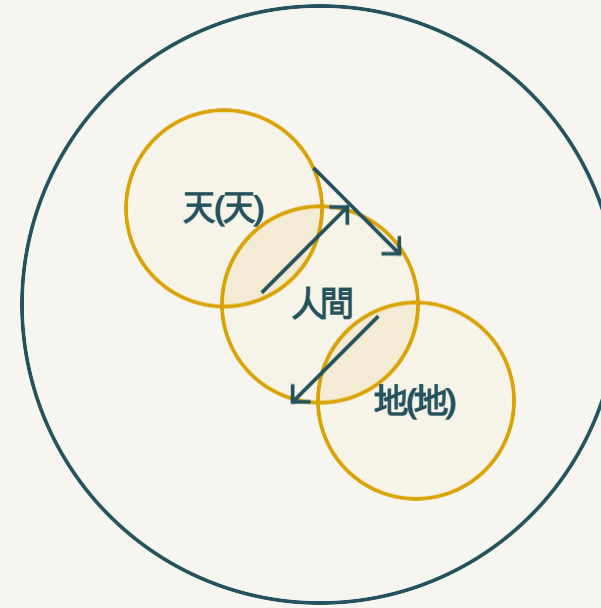
- 天の陰陽五行構造が地と人間にも同一に存在
- 宇宙が0と1の反復のように陰陽の反復
- 人間の誕生を知れば天と地の両方とも把握可能

東洋の接化的人間観

接化的人間観の概念

接化(接化)とは？

接化とは天地(宇宙)と人間が互いに繋がり相互作用することを意味する。東洋思想では人間を天地と分離された存在ではなく、天地とともに宇宙の一部として存在する統合的観点から見る。



天地の気運が凝集した存在

- 人間は天地の秀でた気を賦与された存在
- 陰陽五行の気が流れ込み最も精髓となったのが人間
- 人間は天地の属性を全て持つ仲介者

天地化育に参与する義務

- 人間の義務は天地の化育(化育)に参与すること
- 天地は誠敬信(誠敬信)によって人間を化育
- 人間は誠敬信で天地に報いる存在

東洋の接化的人間観

天地化育と誠(誠)の意味

天地化育(天地化育)と誠(誠)の意味

- 陰陽五行の気(氣)が天地の中に流れ入り、優れたものは人となり滓は事物となる
- 天地の気運を受けた人間は性(性)を持つに至り、この性を尽くして天地に報いなければならない
- 天地は誠敬信(誠敬信)で人間を化育し、人間は誠敬信で報いる関係

惟天下至誠、爲能盡其性、能盡其性、則能盡人之性、能盡人之性、則能盡物之性、能盡物之性、則可以贊天地之化育、可以贊天地之化育、則可以與天地參。

(ただ天下に至誠を行なう者のみが自身の性を尽くしうる... 天地の化育を助けうるのであり、天地とともに参与するに至るのである。)

- 『中庸』22章

東洋の誠(誠)概念

- 天地と人間の創造的相互作用
- 天地の化育に人間が参与する根拠
- 天地と人間を連結する根本原理

ホワイトヘッドの創造性(Creativity)

- 有機体哲学における究極的範疇
- 西洋一元論哲学の「絶対者」と対比される
- 西アジアより東洋哲学とより近い概念



東洋の接化的人間観

現代的再評価と研究動向

東西交流と現代的再発見

西洋の近代化過程において前近代的啓蒙対象と見なされていた東洋の接化的人間観が、東西洋交流に伴い多様な側面から再評価されている。特に相関的思惟を現代学問の観点から再解釈する研究が活発に進行している。

主要な研究者および研究成果

崔仁哲

- ニスベットと共同研究
- 東洋の相関的認識を認知心理学的観点から証明
- 集団性/個人性の差異 心理学的実験で立証

曹兢鎬

- 東洋心理学体系の研究
- 全体から部分を把握する儒学心理学の樹立
- 全人的中庸概念の心理学的解釈

趙玉九

- 言語教育学観の研究
- 千字文と現代教育の比較
- 東洋の相関的思惟が代替的科学となる可能性の提示

朴在圭

- ホワイトヘッド思想中心の総合研究
- 相関的思惟体系の総合的説明の提示
- 東西世界観と倫理の出会いの研究

東洋思想の現代的意味

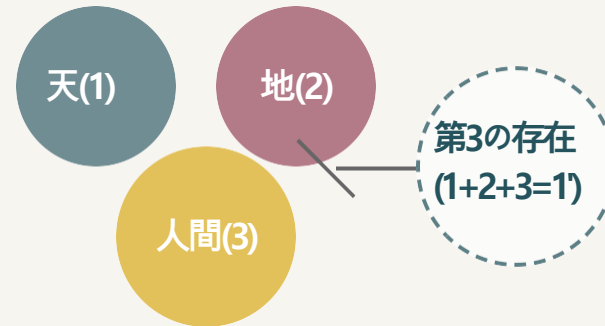
- 認知科学と心理学の発展により東洋の相関的思惟が科学的に立証される段階

東洋の接化的人間観

リミナリティ理論と 自生的近代性

リミナリティ (Liminality) とは？

李寧蘭のリミナリティ理論において人間は境界と転換の存在であり、一つの状態から他の状態へ変化する可能性を持つ存在である。



人間の接化的特性と変化可能性

- 天(1)、地(2)、人間(3)の数学的連結性(李寧蘭の解釈)
- 人間は天地が付与した陰陽魂と魄を通じて自己変化が可能である
- 人間は宇宙の天地化育の公演を理解する「知人(知人)」の役割
- さらに人間は宇宙で共演する存在として発展すべきである

西洋の衝撃と自生的近代性

西洋近代化の衝撃により東洋思想が挑戦を受けたが、これを通じてむしろ東洋は自生的近代性を模索するに至る。リミナリティ理論はこのような脈絡において理想的人間観の実現を準備する理論的基盤となる。

東洋の接化的人間観

結論および示唆点

2025.06.21

東洋の接化的人間観の現代的意味

- 現代社会の分節された人間観を統合的関係的観点で再構成
- 生態的危機の時代において人間と自然の調和的關係を再定立する哲学的基盤
- 技術中心社会における人間疎外問題解決のための代案的思惟体系

接化的人間観の現代的応用と示唆点

環

環境および生態分野

天地と人間の相互互惠的關係認識を通じた持続可能な環境倫理の形成。人間中心ではなく天地と人間の共存的關係回復を通じた生態危機の克服

教

教育および人格発達

相關的思惟を通じた統合的教育方法論の開発。個人の成就より共同体と自然との調和的關係を重視する人性教育

気

技術および科学哲学

フラクタル理論と相關的思惟を通じた新たな科学パラダイムの模索。技術発展が天地化育に寄与しうる倫理的方向性の提示

最終的示唆

東洋の接化的人間観は単に過去思想の再現ではなく、現代文明の危機を克服するための代案的人間・世界観として人間と自然、人間と宇宙の新たな關係定立の土台となりうる